

目次

- | | |
|---|------------------------|
| P1 館長就任あいさつ 内田博文 | P4 2021年度 来館者統計 |
| P2 2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」
ご要望にお応えして12月26日まで会期延長!! | P4 お知らせ |
| P3 撮影は1950(昭和25)年、春 | P4 お客様の声(来館者アンケートより抜粋) |
| P3 2021年度ウォーキングツアー実施報告 | P4 ご利用案内・アクセス |

巻頭言 館長就任あいさつ 内田博文



内田博文館長

このたび、成田稔先生のご勇退に伴い、2021(令和3)年7月1日付けをもって、国立ハンセン病資料館並びに重監房資料館の館長に就任させていただきましたことになりました。身に余る重責ではございますが、これまでハンセン

病問題に多少関わらせていただきました経験を踏まえて、精一杯の努力をしてまいり所存でございます。皆様方には、前館長と同様、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何とぞよろしくお願い申し上げます。

第二次世界大戦後、国際連合が組織されました。国際連合が、二度にわたる世界大戦への反省から、第3次世界大戦を阻止するために最初に取り組んだといってもよいのが、人権の国際化でした。1948(昭和23)年の第3回国連総会で世界人権宣言が採択されました。その前文は、「すべての人民とすべての国とが達成すべき共通の基準として、この世界人権宣言を公布する。」と明示し、人権の尊重をもって、すべての国のすべての人が守るべき共通の準則としています。人権問題は戦後世界にとって最重要の国際問題となっています。

21世紀の人権は、20世紀までの人権と異なり、「当

事者による当事者のための当事者の人権」とされています。障害者権利条約も、この当事者主権に基づいて、従来の「障害」概念について、パラダイムの転換を図りました。たとえば、目が見えなくても、耳が聞こえなくても、歩けなくても、社会の側からの「合理的な配慮」があれば社会参加する上で何ら支障はない。合理的な配慮がないから社会参加できないだけである。障害は当事者にあるのではなく、社会の側にある。障害者権利条約は、このように、パラダイムを転換しました。社会モデルという考え方を採用しました。歩行健全者は階段があれば2階に上がることができるが、歩行障がい者は階段では2階に上がることはできない。しかし、エレベーターがあれば2階に上がることはできる。こういう考え方です。

ハンセン病問題基本法でも、その第6条で、「国は、ハンセン病問題に関する施策の策定及び実施に当たっては、ハンセン病患者であった者等その他の関係者との協議の場を設ける等これらの者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるものとする。」と規定しています。

重監房資料館の運営等においても、この「当事者主権」ないし「当事者参加」はキーワードになるのではないのでしょうか。問題は、このキーワードをいかに具体化していくかです。重監房資料館の職員の方々におかれては、この具体化に日々取り組んでおられることと拝察します。

人権をめぐる内外の動きは急なものが 있습니다。職員の方々のご努力が大きな成果となって結実しますことを願っております。

2021 年度企画展

「重監房を報道した男 関喜平展」

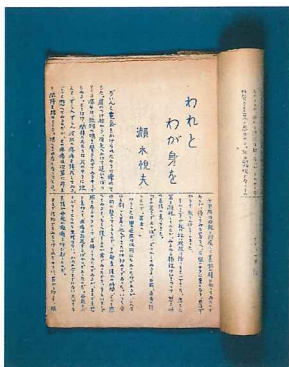
ご要望にお応えして 12月26日まで会期延長!!

7月21日より2021年度の企画展「重監房を報道した男～関喜平展～」を開催しました。オリンピック・パラリンピックの開催と新型コロナウイルス拡大が懸念される時期に重なりましたが、メディアにも多く取り上げていただき、後半にかけてじわじわと来館者が増え、関心を持ってご覧くださるお客様が増えたように感じます。10月になり緊急事態宣言が解除されましたので、本企画展の会期を延長することにしました。

当館のメイン展示は懲罰施設であった重監房の再現であるため、再現映像しかり…どうしても暗く重い気分になりがちです。しかし、関喜平をテーマにすると違います。風通しの良さや力強さ、患者に寄り添うあたたかい視線があります。展示を通してそれらを感じてほしいと思い、今回の企画展では可動壁を動かし、空間をできるだけ開放的に使い、常設展示の解説パネル・映像と企画展示の融合を試みました。展示室にて、文学を志した若かりし喜平の情熱、栗生楽泉園の患者と一緒に国を動かすことに成功した希望を感じていただければと思います。

そして、関喜平のあたたかさは、子孫に受け継がれています。長男の関光さん・初孫の江尻潔さんのご協力で、御親類から様々な情報をいただきました。関家のご自宅にあったご遺品を改めて見ていただく機会にもなったようで、喜平が晩年を過ごした四万温泉滞在時の荷物の中から、若かりし頃の作品や原稿が出てきました。そのなかのひとつが『われとわが身を』です。喜平は瀬木悦夫のペンネームでハンセン病を題材にした『われとわが身を』を戦時中に執筆し、終戦後すぐに謄写版いわゆるガリ版で、自身が発行人をつとめる同人誌に全文を掲載しました。1945年8月20日印刷、9月1日発行です。

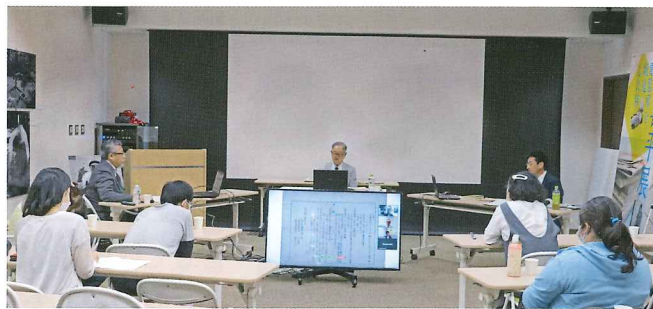
喜平の著作は、1947年11月に雑誌「大衆クラブ」で発表した『特別病室』が



【写真1】われとわが身を

最初だと思われていたので、それ以前にこのような作品があったことは大発見です。さらに、昭和17年頃まで草津町内にあった部落「湯之澤」と思われる「湯の原」が作中にあることも驚きで、今後の研究課題です。

長男の関光さん・初孫の江尻潔さんをお招きしてのトークイベントでは『特別病室』の直筆原稿が見つかったとのサプライズがありました。企画展を開催するにあたり、当館は関喜平の直筆のものを所有しておらず、光さん・潔さんより創作ノートや日記をお借りしたのですが、企画展を通して、思いがけなく情報が集まり、この度、直筆の原稿を寄贈していただいたのは当館にとって有難いことです。『特別病室』の直筆原稿は、会期後半のメイン展示品として公開中です。この機会にぜひ皆様にご覧いただきたいと思っております。



【写真2】トークイベントの様子 関喜平のご子孫のみ会場にお招きしました

上記したトークイベントについて補足いたします。新型コロナウイルス拡大防止のための緊急事態宣言が発令中だった8月、宣言延長が濃厚でしたのでイベント当日の9月11日は会場には来館者を入れずにオンライン配信のみで行うことを決めました。関喜平譲りであろう関光さん・江尻潔さんのかもし出す空気感を多少でもイベント参加者にお届けできるよう、お二人には会場にお越しいただき、できるだけカメラを意識しないでお話いただくようお願いしました。司会進行役と補足説明に当館の黒尾が加わりました。

担当者として嬉しかったことは、オンラインのイベントであるにも関わらず、事前にお申込みいただいた方のほとんどがキャンセルをしないで最初から最後までご視聴してくださったことです。イベント参加の後アンケートやご意見は今後の方向性として役立てます。ご参加いただいたみなさま、そしてアンケートにご協力くださったみなさま、ありがとうございました。(鎌田麻希)

撮影は1950（昭和25）年、春

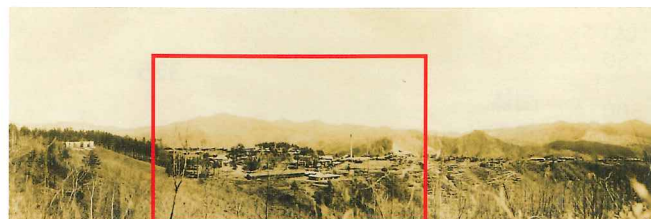
重監房資料館入口にある大型パネル。これはもともと「左」「中央」「右」の3枚からなる栗生楽泉園全景写真です。壁だけが残る重監房や周囲の建物、落葉の様子から、撮影は1949か50（昭和24か25）年秋との推定でした。

ところがこの度、1950（昭和25）年3月撮影と判明。「中央」と同じ写真が栗生楽泉園の聖慰主（せいなぐさめぬし）教会所蔵アルバムから見つかり、それには「25年3月」の文字が記されていたためです。

アルバムに並んで貼られていたのは、「25年3月 ニコルソン先生より山羊を送られる」の写真。ニコルソン先生（通称：やぎのおじさん）は、療養所や養護施設などにララ物資のやぎを届けたキリスト教宣教師です。「その乳もうれしかったが、動物を愛する心を培われたのは、又多大であった」と、園の保育士・西堀やまさんは後に綴っています。

栗生楽泉園に訪れた、1950年、春でした。

（松浦志保）



重監房資料館入口の大型パネル



今回見つかった写真

2021年度ウォーキングツアー実施報告

本年度も、草津温泉バスターミナルから重監房資料館までに点在する、ハンセン病の歴史ゆかりの史跡や施設等を、ボランティアガイドの案内により徒歩で巡るウォーキングツアー「初めてのハンセン病史 - もう一つの草津温泉 -」を実施致しました。今回から開催期間を9月末までに延ばして、6回のツアーを企画し、全日程で22名の方々にご参加頂きました。（悪天候により2回中止となり、7月24日、31日、8月7日、9月25日の4回開催。）

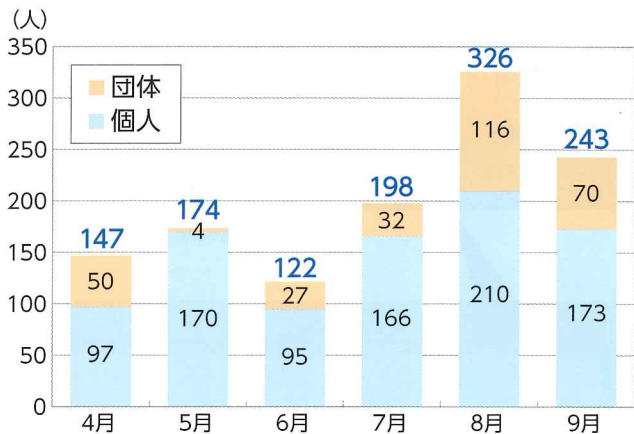


観光地としてにぎわう草津の温泉街と、現在ではその痕跡すら感じる事ができないハンセン病との古からのつながりに驚く参加者の方々の感想が多く、ハンセン病と草津町との歴史の深さをお伝えすることにより、あらためて当館が重監房及びハンセン病に関する知識を普及啓発する拠点としての役割の重要性を感じることができた、と思っております。

（香川進司）

2021年度 来館者統計

9月30日現在



2021年度入館者数

延べ **1,020人**
 1日平均 **7.8人**
 開館以来延べ **42,605人**

ホームページアクセス数

2021年度 **30,240回**
 開館以来延べ **349,522回**

お知らせ

■新型コロナウイルス感染拡大防止のための、来館者の皆様へのお願い

重監房資料館では新型コロナウイルス感染防止のために、現在、館内の見学者を常時20人までに制限させて頂いております。開館時間も、フルオープン期は、10:00～15:30（最終入館15:00）に縮小させて頂いております。事前に、ホームページから見学のご予約を頂ければ、幸いです。

ご不明の点は、お手数をおかけしますが、重監房資料館までお問合せください。

お客様の声（来館者アンケートより抜粋）

◎初めてハンセン病の患者さんに会ったのは10代の時でした。その時ハンセン病の事は全く知らず、その方が側に来た時、私はその場の席を変えた事は、ハンセン病だと知る時まで自分をいやな奴だと思っていました。ハンセン病の事をまたひとつ知る事が出来、とても良かったと思います。（神奈川県、69歳・女）

◎高校で教員をしています（私は英語、夫は国語です）。私が中学1年のときに担任がハンセン病と人権について授業をしてくれ、当時はとにかくショックでしたが、その分記憶に残っています。道路の看板を見て、ここを知っている！と思い出し立ち寄りました。夫を連れて来られてよかったです。予約なしに入れて頂いてありがとうございました。また今度家族や友人を連れて来たいと思っています。（千葉県、29歳・女、教員）

◎「あん」という映画をきっかけにハンセン病について調べるうちにこの資料館を知りました。映画を見た時にも思いましたが、世の中には自分の知らないこと、わかっていないことがまだまだたくさんあると感じました。ハンセン病というだけで、虐げられていた人々のことを考えると想像を絶する苦しみだったと思います。これをきっかけにもっと色々なことを知ってほしいと思いました。（前橋市、31歳・女、事務）

◎もっと勉強したいです。私は右眼がありません。『義眼のだるま』を読んでから、私は義眼をつけるのをやめました。彼の詩が私の心を変えて、いつか彼の詩が私の人生を変えてしまうかも。ハンセン病の人達が差別・偏見と戦ったように、私は義眼をつけないうことで、戦います。「気持ち悪い」言われても、もう、こわくないよ！（東京都、43歳・女、自営）

ご利用案内・アクセス

- 開館時間 4/26-11/14（フルオープン期間）：9：30～16：00
 ※但し、当分のあいだ、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
 10：00～15：30（最終入館15：00）に縮小させて頂いております。
 11/15-4/25（冬期予約期間）：10：00～15：30（団体、個人とも完全予約制）
- 休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日
- 入館料 無料
- 交通案内 鉄道・バス利用の場合 JR 吾妻線長野原草津口駅より草津温泉行バス約25分
 草津温泉バスターミナル下車 タクシー約7分、徒歩約45分
 車利用の場合 渋川伊香保ICより約2時間10分 上田菅平ICより約1時間50分
 （草津方面からお越しの場合は楽楽園の正門をらず、その先200mの未舗装路をお入りください。）

重監房資料館「くりう」第18号【季刊】

発行日：2021（令和3）年11月1日／企画・編集・発行 重監房資料館／URL：<http://sjpm.hansen-dis.jp/>

〒377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533 TEL：0279-88-1550 FAX：0279-88-1553